

太宰府



令和の都 だざいふ ガイドブック
Dazaifu City Guide Book





大伴旅人家持親子像

春

「万葉集」初春令月に 令和の梅がほころぶ 春のだざいふ

元号令和発祥の地となっただざいふ。

春には市の花となっている「うめ」や
満開の桜が一面に咲き誇る。

ふと目を閉じると、西の都であった当時の
「大宰府」のことが思い起こされる。

梅花の宴で大伴旅人公も愛でたであろう
梅を使ったグルメやスイーツを味わい、
当時の大宰府に思いをはせてみては。



▲大宰府政庁跡「令和」の人文字



▲「令和の都だざいふ梅プロジェクト」商品



▲竈門神社 桜



◀水城跡 菜の花



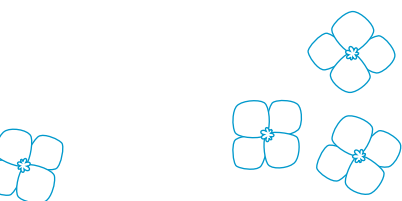
▲「梅花の宴」での大伴旅人博多人形



▲観世音寺宝蔵



▲九州国立博物館
ガラスウォールに映る夏の風景



▲太宰府天満宮 クスノキと楼門



▲戒壇院 坐禅会



▲日本一の猛暑の中も観光を楽しむ人々

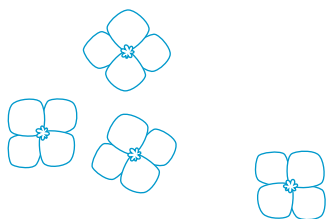


夏

爽やかな風と若葉の香りに包まれる夏のだざいふ

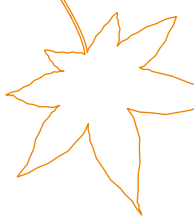
このクスノキはおいくつなのだろう。何人の人たちを見守って今ここに立っているのだろうか。緑が芽生え、朱く染まり、散ってはまた息吹きを起こす。

日々の暮らしの中で、人生を息苦しく思ってしまうこともあるけれど、この場所を流れる時の雄大さや、ふところの深さを知ったとき、凜と背筋をのばして明日に向かうことができる。





秋



艶やかな彩りが
豊かな情緒を誘う秋のだざいふ

“今”を生きる。

守られてきた豊かな自然や確かな文化を、“今”美しいと感じること。その喜びを、大切な人と“今”分かち合えること。私たちや子どもたちのために“今”これからのことを思うこと。

伝統と革新が調和する場所だからこそ、“今”に大きな意味が芽吹く。



▲竈門神社 お守り授与所



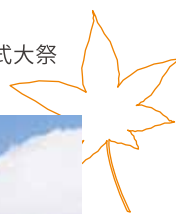
◀太宰府天満宮の神幸式大祭



▲光明禅寺 紅葉



◀観世音寺 コスモス



冬



▲期間限定の太宰府天満宮 仮殿の雪景色



▲太宰府天満宮 曲水の宴

それぞれの思いを胸に 未来を願う冬のだざいふ

観世音寺の鐘の音が、ここにまた新しい一年のはじまりを告げる。菅原道真公をはじめ、太宰府に生きた先人たちはこの音に何を思ったのだろう。

脈々と続く伝統に触れることで、彼らの思いを垣間見ることができるのだろう。五年後、十年後、二十年后と私たちの気持ちは重なって、太宰府とともにまた新しい歴史を刻んでいく。



太宰府天満宮 鬼すべ神事
提供：（一社）太宰府観光協会



太宰府観光 10選



①大宰府政庁跡

天平の世大宰帥大伴旅人が梅花の宴を催した元号令和発祥の地。古より我が国の政治行政、外交防衛、文化交流などの要衝として、また大陸からの玄関口として栄えてきた「令和の都ださいふ」の象徴。

②水城跡

664年、唐・新羅の侵攻に備えて人の手だけで築かれた防衛施設である。全長1.2kmに及び、博多側に幅60m、深さ4mの濠を造り、水を貯えたことからその名がある。

③大野城跡(四王寺山)

日本最古の城。665年、ここに朝鮮式山城大野城が築かれたことから、大野山、大城山とも呼ばれた。約8kmに及ぶ尾根をめぐる土塁、谷を塞ぐ石垣は見る者を圧倒する。8世紀後半に四王寺(四王院)が建立されて以来、仏教の聖地として知られ、現在も33石仏が山中に配されている。

④宝満宮竈門神社

宝満山の山頂に上宮、山麓に下宮が鎮座する。祭神は玉依姫である。大宰府の北東に位置し、鬼門を守るとされる。現在では、縁結びの神として知られている。下宮境内では、紅葉など四季折々の色彩を味わうことができる。

⑤宝満山

別名を御笠山、竈門山ともいう。修験道の霊峰であり、福岡県内で最も登山者の多い険しい山として知られている。標高829.6m、山頂には竈門神社上宮がある。また、山頂からは360度の眺望を楽しむことができる。

⑥観世音寺

『源氏物語』にも登場する観世音寺は、斉明天皇追悼のために天智天皇の発願により建立された寺院。宝蔵に安置された仏像(重要文化財)は必見で、境内には日本最古といわれる梵鐘(国宝)も残る。

⑦戒壇院

戒壇とは僧尼が守るべき戒律を受ける所で、戒壇院は奈良時代に観世音寺に設置された。奈良東大寺・下野(栃木県)薬師寺のそれとともに「天下の三戒壇」と呼ばれる。江戸時代に観世音寺より独立、現在は臨済宗寺院となっている。

⑧太宰府天満宮

大宰権帥として大宰府に左遷され、この地で亡くなった学問の神・菅原道真公をまつ。現在の本殿(重要文化財)は1591年の再建である。境内を彩る四季折々の花や古式ゆかしい神事・祭事が参拝者を魅了する。

⑨光明禅寺

太宰府天満宮の南にあり、苔寺の名で親しまれている。前庭の仏光石庭、裏庭の一滴海庭という枯山水の庭は一見の価値がある。初夏には新緑、秋には紅葉も楽しめる。渡宋(唐)天神伝説によって鎌倉時代に創建されたと伝えられている。

⑩九州国立博物館

古くから交流の窓口であった九州の地に、東京・京都・奈良に次いでできた4番目の国立博物館。「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」というコンセプトをもつ。3階の特別展示室、4階の文化交流展示室のほか、1階にはアジア文化の体験型展示室“あじっば”がある。



張人のたびと 令和の都ださいふ発祥の地太宰府 町とものタビット れいわ姫

関連ホームページ (https://)



太宰府市
(www.city.dazaifu.lg.jp)



太宰府観光協会
(dazaifu.org)



古都大宰府保存協会
(www.kotodazaifu.net)



九州国立博物館
(www.kyuhaku.jp)



太宰府天満宮
(www.dazaifutenmangu.or.jp)



竈門神社
(kamadojinja.or.jp)

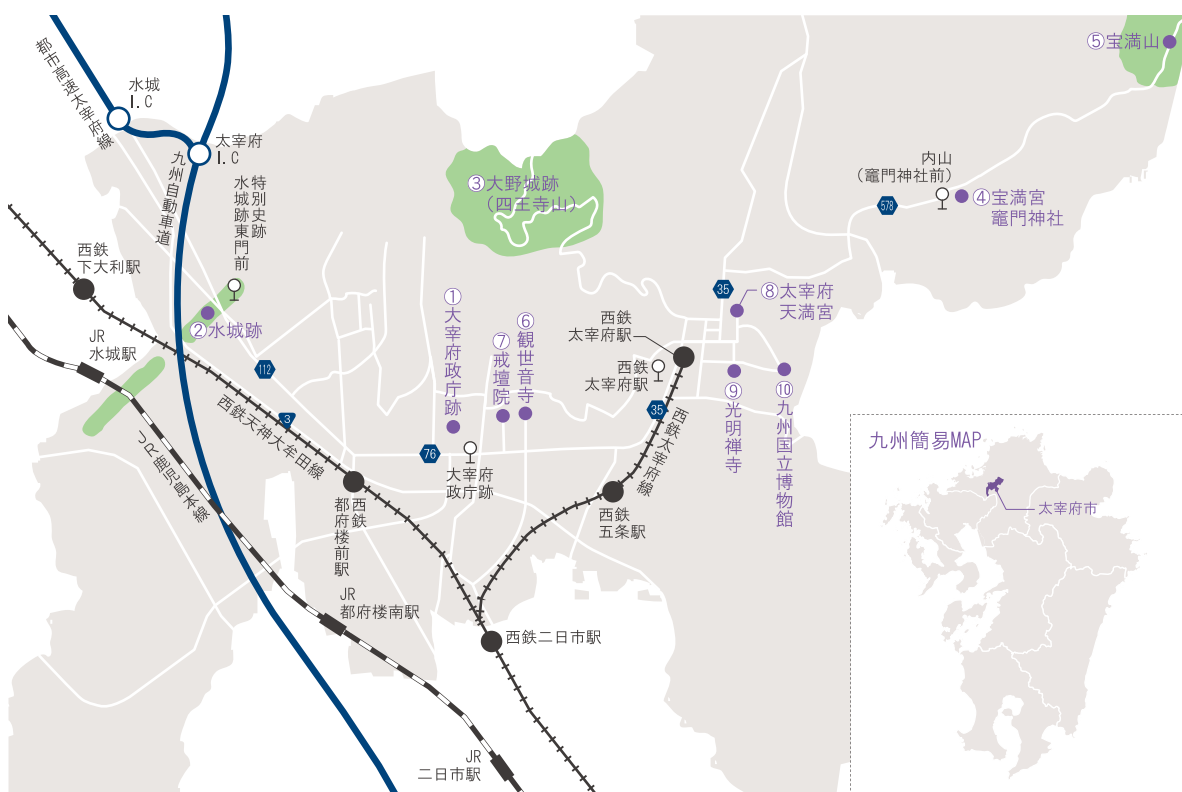


観世音寺
(kanzeonji.net)



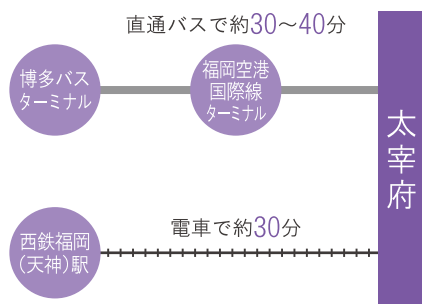
戒壇院
(kaidanin.or.jp)

太宰府市 詳細MAP



太宰府市へのアクセス

太宰府へのアクセスが“より楽しく、より便利”になりました。



太宰府ライナーバス「旅人」

JR博多駅や福岡空港から乗り換え不要で太宰府へお越しいただけます。



太宰府観光列車「旅人」

西鉄福岡(天神)駅から風情あふれる列車で太宰府へお越し頂けます。



お問い合わせ：0570-00-1010(西鉄お客さまセンター)

表紙デザインについて



『博多太宰府図屏風』斎藤秋圃筆 個人蔵(写真提供:九州歴史資料館)

『博多太宰府図屏風』には、関屋から太宰府天満宮に至る街の風景が描かれており、門前町を多くの人々が往来する江戸時代の「さいふまいり」のにぎわいを今に伝えています。

当時から人々に変わらず愛され続けてきたからこそ今の太宰府があることを、現在の写真と絵図で表現しています。

市の花である「うめ」をモチーフに、太宰府政庁をイメージした朱色で華やかにデザインしました。

大宰府



令和の都 だざいふ ガイドブック
Dazaifu City Guide Book

